平成23年度社会貢献プロジェクト

筑波大生とつくば市民の国際交流推進

★インターナショナル・カフェ～City Chat Cafe～

白岩善博（生命環境系・教授）

事業の概要

参加者数：**（延べ）700名**（毎回約40名x2011年4月～2012年3月計18回）

本カフェは、**人々が集まり、お喋りし、様々な背景を持つ方々との出会いを楽しみ、特にテーマを与えずに様々な話題について自由におしゃべりする**方式である。LALAガーデンつくばのコミュニティ・ルームで、平均月2回のペースで実施した。参加者は**つくば市民の他、土浦市、取手市、下妻市など**周辺市町村からの方々も多く、年齢も**小学生～70代**までと幅広い。留学生および語学が堪能な筑波大**学生がアシスタント**となって（毎回10名程度）、参加者が語学に拘らず気軽にカフェを楽しめるよう各テーブル（8－9卓）に待機し、会話（**英語が主**で、参加者の希望により**日本語、中国語、ロシア語、アラビア語など**）をリードすると共に、参加者間の**コミュニケーションを円滑に**図る役割を果たした。

事業成果の概要

平成20年8月より事業開始以来、**4年間合計67回実施**した。参加者は通算**数百人**に及び（参加者名札の数から推測）、そのうち常連の参加者は百人近くおり、Free, Frank & Friendlyの雰囲気が定着し、一つのコミュニティ的存在となったと言えよう。

トピックを設定せず、**国際交流を体感**すると共に、ひたすら**会話を楽しむ**という主旨で開催してきたが、その会話には実に**意義深い内容**が多い。日本人が海外での経歴、外国人が日本に来て経験した・感じたこと、**国々の文化や風習についての交流**がある他、**学術、芸術、社会問題、国際時事など**に関する深刻な議論もある。研究者や学生が多く在住する学園都市というつくばならではの環境の中で、本カフェは**国際交流という枠組みの中で、様々な分野における様々な考えが交流する場**であった。これはまさに本事業の展望である、「学園都市の国際交流が日常的となり、研究機関が進める国際化を支える社会基盤の構築」に寄与しているのではないか。

地方自治体等との連携

茨城県、つくば市、筑波研究学園都市交流協議会、つくば市国際交流協会から後援を頂き、広報などで本カフェの開催が紹介された。

特に記したいのは、本カフェは**参加者経由で周辺の市町村に影響**が及んでいることである。例えば取手市国際交流協会会員の方が本カフェへの参加を経て、“Toride Chat Square”を発足させた。**更に多くの人々の国際交流への興味と関心に繋がっていく**ことが、本カフェの一つ大事な役割である。

平成24年度からは筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市が主催となり、筑波大学の協力と連携の元に、インターナショナル・カフェを継続させていく方針が決定された。

ホームページ掲載例

www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~icafe/

メディア報道

- 2008年9月26日　朝日新聞茨城版（朝刊）
  「留学生とつくば市民　英語で親善人気」
- 2009年6月6日　常陽リビング
  「コーヒー片手に国際交流　インターナショナル・カフェ」
- 2009年6月23日 茨城放送<つくばスタイル>に学生アシスタント代表が電話インタービューに生出演　City Chat Caféについて紹介
- 2009年11月11日 つくば経済新聞(http://tsukuba.keizai.biz/)
  「インターナショナル・カフェが人気に―筑波大、社会貢献事業で開催」
- 2010年8月5日 取手市国際交流協会広報誌“かわら版”第59号
  「City Chat Café in Englishつくば をご存知ですか」

開催風景